こうべ森林整備戦略
（案）

令和８年４月　神戸市

目　次

第１章　戦略の位置づけと目的.....1
（１）戦略策定の背景.....1
（２）戦略改定のポイント.....2
（３）戦略の概要.....3
①戦略の位置づけ.....3
②戦略の対象範囲.....3
③戦略の対象主体.....4
④目標年次の設定.....4
（４）森林を取り巻く課題と取組の方向性.....5
①森林の概況.....5
②森林が抱える問題とリスク.....5
③現行戦略の振り返りと取組の課題.....7
第２章　森林整備の目標.....9
（１）森林整備の基本方針.....9
（２）目指すべき森林像.....10
（３）エリア設定と森林整備方針.....13
①エリア設定.....13
②各エリアの整備方針.....14
③エリア共通の課題への対応方針.....20
（４）到達目標.....22
第３章　目標実現に向けた取り組み.....23
（１）取組の全体像.....23
（２）分野ごとの取組.....24
①整備拡大.....24
②循環利用.....27
③人材育成.....31
④普及啓発.....33
⑤基盤づくり.....35
（３）戦略のロードマップ.....37
第４章　取組を進めるための効果検証・財源確保.....38
（１）取組の進行管理・検証.....38
（２）進行管理のための指標.....38
（３）取組を進めるための財源.....39

第１章　戦略の位置づけと目的

（１）戦略策定の背景

神戸市では、海に面した市街地のすぐ背後に雄大な六甲山が連なり、北部には田園や里山が広がっています。世界の大都市でも類のない特徴です。

市域の森林の多くはかつての薪炭林であり、千年以上の長期にわたり燃料や肥料を供給してきました。しかし、これらの森林では、生活様式の変化に伴って利用が停止した結果、大木や常緑樹で暗くなり、病虫害の増加や竹林の拡大などの問題が顕在化しています。また、はげ山が広がっていた六甲山では、明治時代以降の大規模な植林により、全山が緑に覆われる状態となっていますが、同様に大木化や常緑樹の増加が課題となっています。

市は 2012 年に「六甲山森林整備戦略」を策定し、官民連携による森林整備と伐採木の利用を進めてきました。また 2019 年には、森林環境譲与税の創設に合わせて「森林環境譲与税を活用した森林整備実施計画」（以下、森林環境譲与税計画）を策定し、六甲山の山麓から農村エリアに広がる里山林を含めた市全域の森林を対象に、森林整備や資源利用などの取組を展開してきました。

この 10 年と少しの間に、気候変動による問題の深刻化、脱炭素化や自然再興（ネイチャーポジティブ）などへの意識の高まりなど、森林を取り巻く国内外の情勢は大きく変化しています。一方で、市内の森林には前述の課題がまだたくさん残っています。健全な状態の森林を次世代に引き継ぎ、森林を都市の魅力として活かしていくためには、これまでの成果や最近の情勢を踏まえた方針の修正や転換も必要です。

そこで、「六甲山森林整備戦略」の見直しの時期を迎えるに際し、成果及び課題の振り返りならびに目標及び方針の再考を行い、森林環境譲与税計画と統合した新たな戦略として改定しました。

＊「森林整備」という用語の定義
本戦略で用いる「森林整備」という用語は、単に伐採等により森林の状態を整えることではなく、森林の適正な伐採、伐採木の搬出、次世代の森林に更新するための育成作業を含む一連のサイクルに必要な管理行為を意味します。また、行政の公的事業に限らず、森林所有者や市民団体、民間企業等の取組も含むものとします。

（２）戦略改定のポイント

森林整備戦略の改定にあたってのポイントは次の３点です。

ポイント１：これまでの取組を検証し、次の戦略に活かします。

- 13 年間の取組を振り返って、実効的な取組は継続あるいは拡充し、課題の残る部分については適宜内容を見直します。

ポイント２：良質な森林がもたらす持続可能・再生可能な都市の実現に向けた新しい方向性を示します。

- 神戸市では、2025 年より「森の未来都市　神戸」を掲げ、「森林・里山の再生」として防災・減災や二酸化炭素の吸収・固定などの森林機能を高め、地域の森林資源を循環利用するために、荒廃した森林や里山を適切に管理することを進めています。この考えに基づき、新たな戦略にも以下の方針を盛り込みます。
- 自然災害の激甚化に対処するため、森林の防災・減災機能を高めるための森林整備を積極的に進める方針とします。
- 森林の管理と資源の利用、そして次世代の森林の再生までをひとつのサイクルとして捉え、持続的な森林管理・再生の仕組みの構築を目指します。
- 公的な森林整備だけでなく、森林所有者や事業者による森林管理を促進するために、所有者への支援や人材育成を強化します。

ポイント３：市域全体の森林を対象とした戦略とします。

- 六甲山のみを対象とした戦略から、帝釈山地（丹生山や帝釈山を含む山地）など他の山地及び農村エリアやニュータウン周辺の里山林や緑地などにも対象を広げた戦略とします。

（３）戦略の概要

①戦略の位置づけ

本戦略は、「神戸市みどりの基本計画」の森林に関する実践的な計画として、森林整備及び森林資源の利用などの取組の方針をまとめたものです。

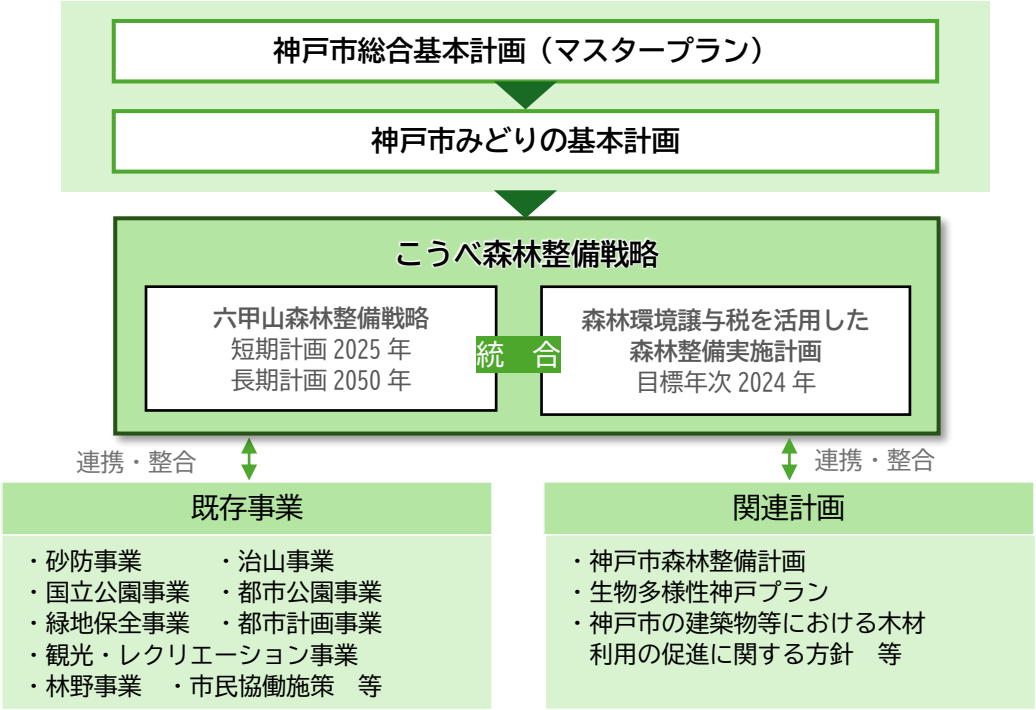


図　戦略の位置づけ

②戦略の対象範囲

神戸市内のすべての森林を対象とします。国有林やグリーンベルト整備事業の対象区域など、国・県で管理している森林は対象外としますが、関係者で情報を交換しながら連携を進めます。

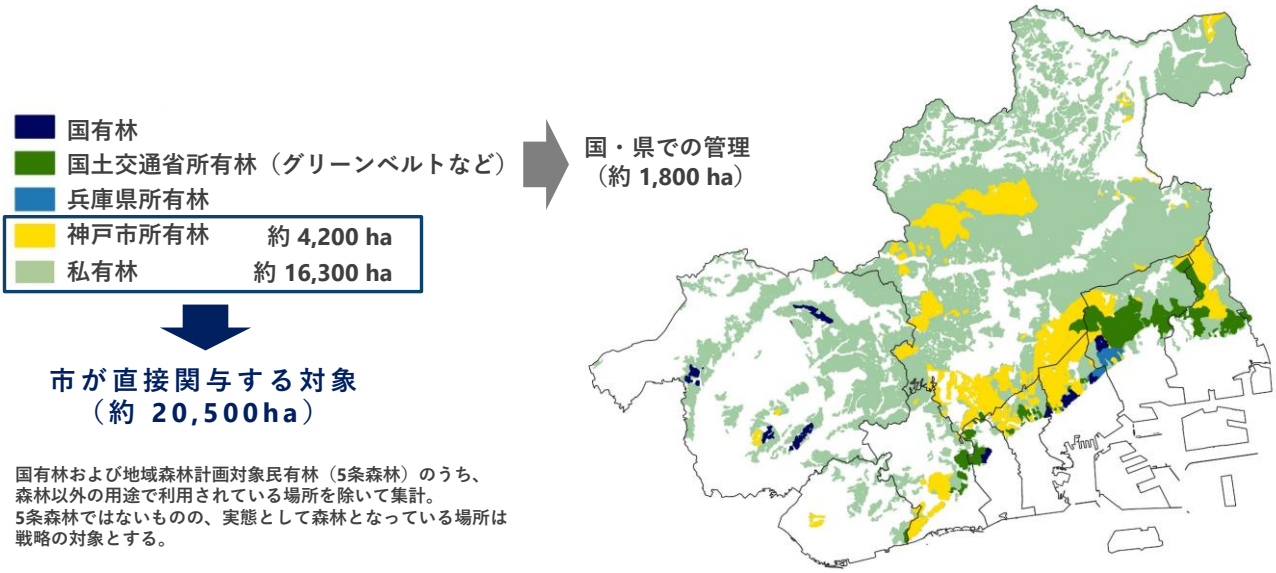


図　戦略で対象とする森林

③戦略の対象主体

市、市民、森林所有者、事業者、団体等、森林に関わる様々な主体に、実践のための指針として活用されることを想定しています。

④目標年次の設定

長期的には 100 年先を見据えたうえで、下記のとおり短期目標及び中期目標を定めます。戦略の進捗状況や社会情勢の変化に応じて軌道修正するため、５年に１度を目安に振り返りを行います。

短期：2030 年 （モデル的な実証を積み重ね、取組を拡大していく）		中期：2035 年 （森林所有者や市民の関わりを増やしていく）
本戦略では、モデル的に着手する取組を提示します。	→	本戦略では、取り組むべき事項と数量的な到達目標を提示します。

（４）森林を取り巻く課題と取組の方向性

①森林の概況

神戸市では市域の約４割を森林が占め、その面積は約 22,000ha に及びます。六甲山や帝釈山地などにまとまった森林が存在するほか、北区や西区には、農地やニュータウンを取り囲むように森林が広がっています。

森林の 90%は、広葉樹林やアカマツ林です。これらの森林には、六甲山頂のブナ林や太山寺の照葉樹林の一部など、原生的な自然の面影を残す森林もありますが、それらを除けば、燃料や肥料を採取するために利用されてきた里山林です。六甲山には、治山・砂防のための植樹によって成立した森林もあり、その中には外来種が優占するものも含まれています。

スギやヒノキの人工林は、全国では森林の約 40%を占めますが、神戸市ではわずか６%程度となっています。

竹林は、北区や西区の農村エリアを中心に拡大を続けており、全体の約４%を占めるようになっています。

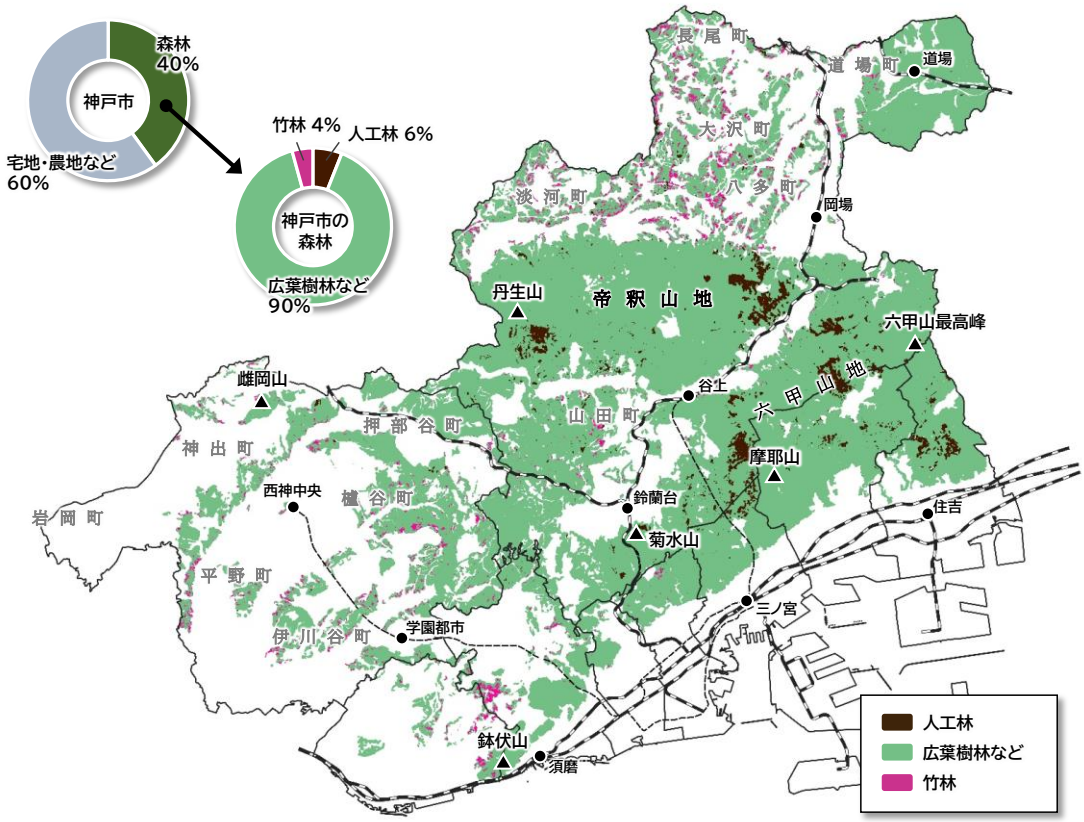


図　森林の分布状況

②森林が抱える問題とリスク

市域の森林の大半を占める広葉樹林やアカマツ林では、里山林としての資源利用がなくなったことにより、樹木の大木化やナラ枯れ・マツ枯れなど病虫害の蔓延などによる倒木リスクの増大や、常緑樹の増加や竹の侵入・拡大に伴う生物多様性の損失などの問題が生じています。また人工林では、間伐などの管理が不十分であるために、森林の構造や樹種構成が単調となっています。

このような状況では、森林のもつ多面的な機能が減少する可能性があるほか、景観の悪化や林野火災発生時の延焼拡大などにもつながります。また、近年になって確認されているニホンジカの生息域の拡大は、植生の衰退等を介して、防災、生物多様性、農業、観光業、交通、健康などに幅広く影響を及ぼすおそれがあります。

表　森林の多面的機能

- 生物多様性の保全
- 地球環境の保全（CO2 の吸収）
- 土砂災害の防止
- 水源涵養
- 快適な環境形成（暑熱緩和、大気浄化など）
- 文化（景観、芸術、伝統文化）
- 物質生産（木材、食料、その他原料）

表　神戸市の森林における主要な問題とリスク

- 気候変動に伴う災害リスクの増大
- 樹木の大木・老木化、病虫害による倒木リスクの増大、景観悪化
- 利用可能な森林資源の減少
- 里山林の常緑樹林化や竹林拡大に伴う生物多様性の損失及び持続性低下
- 管理不足の人工林における森林機能の低下
- 林野火災のリスク増大
- ニホンジカ及びイノシシの分布拡大あるいは高密度化による植生衰退、農業・観光業・生活への被害
- 貴重な生態系の衰退・縮小（ブナ林の衰退、草原・湿原の縮小）

防災機能や生物多様性の乏しい森林

住宅に迫る大径木

里山林の常緑樹林化

ニホンジカが高密度化した地域における
斜面の土壌侵食（川西市）

③現行戦略の振り返りと取組の課題

六甲山森林整備戦略に掲げた各取組に対する振り返りの要点を以下にまとめました。

●エリア設定

- 前戦略では、森林の特性に関する分析や評価に基づいて六甲山を５つのゾーンに分類し、ゾーンごとに目標林や管理手法を設定しました。
- しかし、実際の施業にあたっては、対象地の地形、隣接施設の有無、森林の状態など、ゾーン内の詳細条件に応じて目標林や管理方針の調整が必要となり、上記ゾーニングを反映できない場面が多く見られました。
- 新戦略では市域森林のゾーニングは行わずに、立地条件ごとに目標林や管理方針を設定することが実用的と考えられます。

●森林整備

- 伐採等の施業は年々進められていますが、この 13 年間に一定の施業が進んだ森林の面積は、六甲山全体の１割に満たない状況です。
- 県民緑税による新事業（都市山防災林整備事業）や森林環境譲与税の創設により、公的資金による私有林の整備が進みました。一方で、市有林や保安林の整備規模が縮小している点、森林所有者など民間による整備の規模が小さい点が課題となっています。
- 森林所有者の高齢化や世代交代が進んでいる状況も踏まえて、森林所有者の理解を得て、共に管理を進めていくための連携が重要となっています。

表　六甲山森林整備戦略の振り返りと改定に向けた留意点

	現戦略の振り返り		改定に向けた留意点
エリア設定	・戦略的ゾーニングを設定し、場所ごとに整備を推進 ・ゾーニング設定と現場状況との不一致	➡	✓ 立地条件に応じた、より実践的な森林整備方針へ
森林整備	・唐櫃地区や菊水山などで整備を実施 ・防災や景観の観点から整備を推進 ・私有林の整備の推進	➡	✓ 整備エリアのさらなる拡大 ✓ 市有林・保安林の管理
資源利用	・KOBE WOOD の設立、六甲山材の利用の促進	➡	✓ 資源の循環利用のさらなる増進
マネジメント・組織	・こうべ森と木のプラットフォームの設立 ・森林に関する講習会やフォーラムの実施 ・技術者や新たな参画主体等の伸び悩み	➡	✓ 技術者などの人材育成の強化 ✓ プラットフォームの取組拡大 ✓ 民間企業等からの資金確保

●森林資源の利用

- 戦略の策定後、民間事業者や「Kobe もりの木プロジェクト」等による神戸市産木材の利用や、「こうべ森と木のプラットフォーム」による事業者等の連携強化、流通の基盤となる神戸市産木材ストックヤードの整備が進みました。神戸市産木材等のブランドである「KOBE WOOD」もスタートしています。
- 一方、年間利用量（2024 年の広葉樹及び針葉樹の合計）は 200 ㎥程度であり、利用可能な森林資源量のうちのわずか一部に過ぎません。放置された里山林や人工林の管理を促すためには、川上から川下の連携強化、資源価値の可視化、需要創出などにより、森林資源（特に広葉樹）の循環利用をさらに促進する必要があります。

●マネジメント・組織

- 神戸市の森林の多くは里山林であるため、木材生産を主体とする林業は発達していません。そのため、伐採や製材を担う事業体が少ないのが実状であり、各分野の担い手及びその活躍の場を増やす必要があります。
- 広葉樹の伐採から加工、製品化までには、多岐にわたる課題があります。資源利用を推進するためには、木材コーディネーターも含め、専門人材の確保が不可欠です。
- 「こうべ森と木のプラットフォーム」の参画者数は増加を続けていますが、ネイチャーポジティブへの貢献が必須となりつつある民間企業など、さらに多くの主体の参画が期待されます。

第２章　森林整備の目標

（１）森林整備の基本方針

持続可能な国際都市の実現のためには、健康な状態で持続する森林として整備を進める必要があります。

森林の整備にかかる重要テーマとして、「防災・減災」、「森林・資源の循環利用」、「豊かな生活空間の形成」の３テーマを掲げ、それぞれに対し、以下に示す方針に沿って森林整備を進めます。

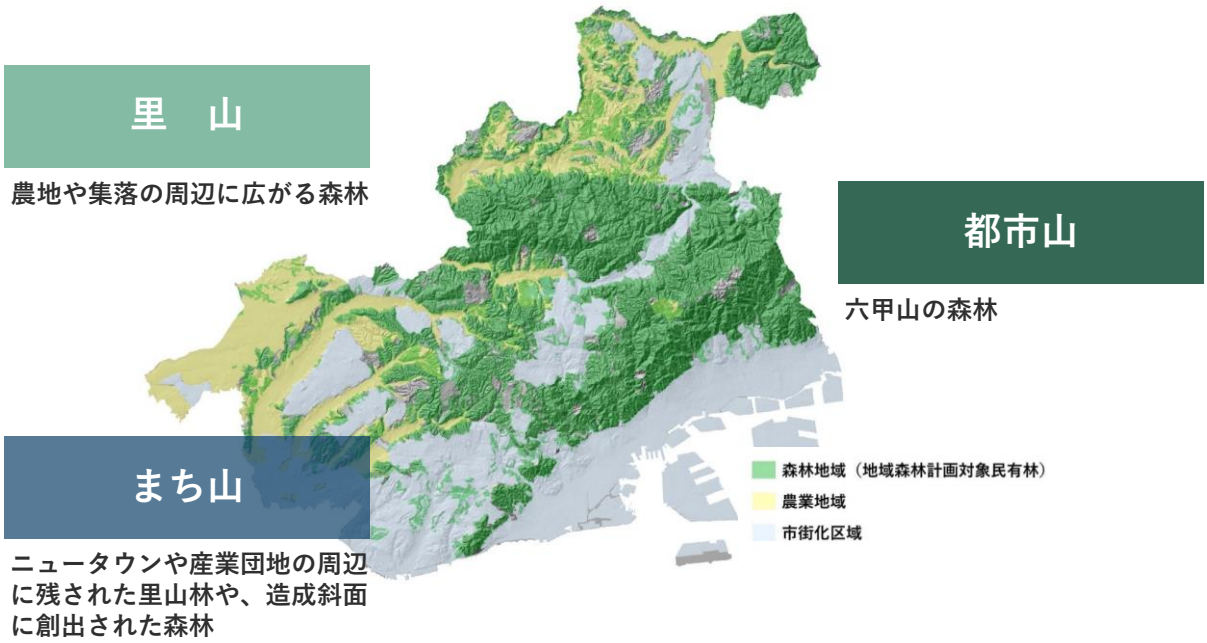
表　森林整備の基本方針

防災・減災	• 適正な管理により森林の機能向上を目指します。 • 流木や倒木による災害・事故のリスクを軽減します。
森林・資源の循環利用	• 森林資源の利用と再生を進めます。 • 積極的な管理により、森林の健全化と生物多様性の増進を図ります。 • 空間など多様な資源を利用した民間ビジネスを創出します。
豊かな生活空間の形成	• 森林を保全・育成し、気候変動の影響の低減を図ります。 • 身近にアクセスできる良質な自然の確保を目指します。 • 豊かな農村や生物多様性、文化を保全します。

（２）目指すべき森林像

全体としては、落葉広葉樹を中心とした明るい森として管理することで、防災・減災機能の維持・向上や、四季の変化がもたらす神戸らしい景観や豊かな生物多様性の保全を目指します。また、住宅や道路など施設の周りでは、積極的な伐採が進められ、樹木の高さが低く抑えられている状態を目標とします。

さらに、森林の管理目標と手法の違いから、市域の森林を「都市山」、「里山」、「まち山」の３タイプに分類し、それぞれの目標像を示します。



都市山

里山

まち山

図　市域森林の３つのタイプ

■都市山の目標像

- 都市山・六甲山にひろがる森林です。
- 植林に由来する森林は適正に管理され、防災・減災機能が維持されています。また、自然災害によって斜面崩壊が発生した場合にも、自然の力で回復が進む状態に近づいています。
- 市街地が近接する山麓では、特に入念な管理が行われ、倒木による被害の未然防止が図られています。
- 登山道及びその周辺では、適正な施業によって明るい林相が維持されるとともに、街や海を臨む眺望が維持されています。
- 六甲山の山上では、明るく美しい森林や眺望を維持するための管理が継続して行われ、観光地や保養地としての魅力が維持されています。

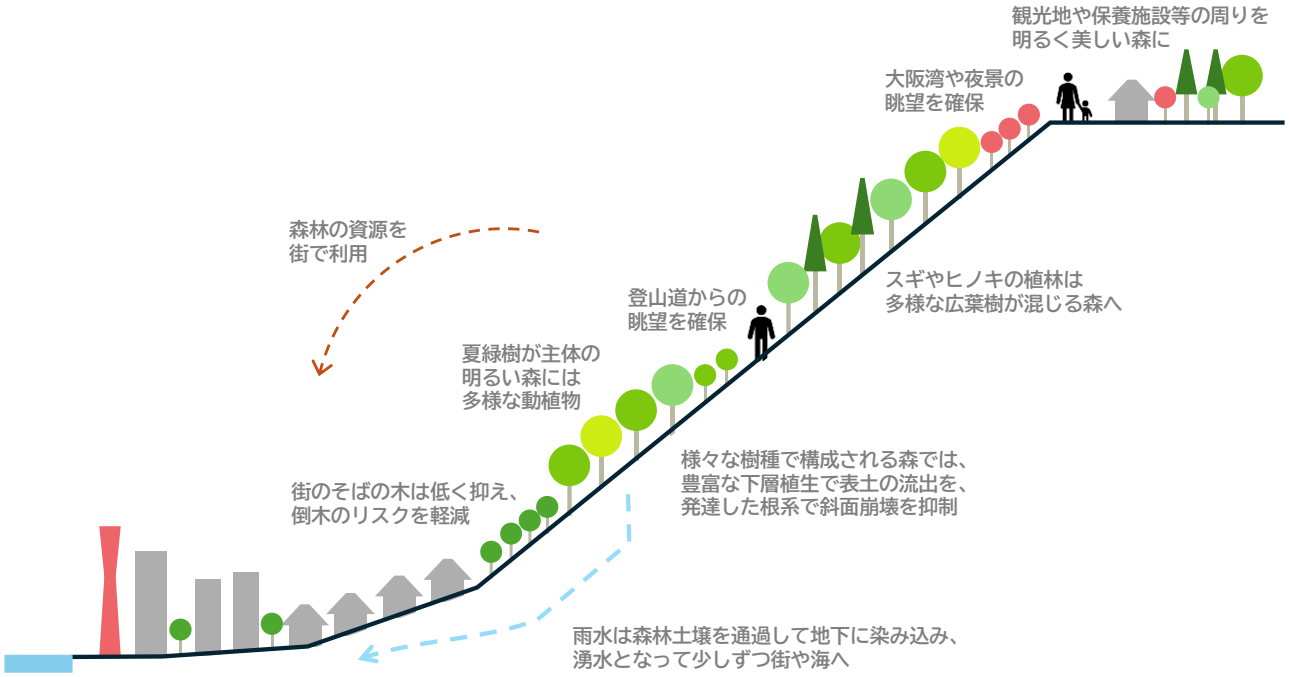


図　都市山における森林の目標像

■里山の目標像

- 西区や北区の農村エリアに広がる森林です。
- 里山林の利用再開により、伐採と再生が繰り返され、健全な状態で維持されています。
- 伐採木等の売却や空間利用によって得られる収益は、森林の所有者や管理者の管理意欲につながっています。
- 繰り返しの伐採により木々は低く抑えられ、田畑への日照が確保されています。また、見通しが確保されることで、野生動物による農作物被害も低減されています。

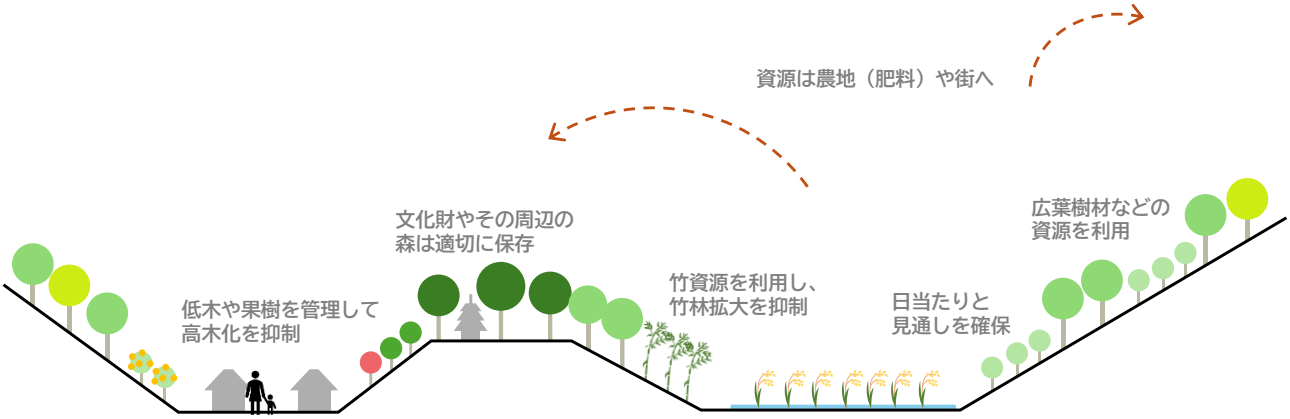


図　里山における森林の目標像

■まち山の目標像

- ニュータウンや産業団地の周囲に残された森林や、造成斜面に創出された森林です。急傾斜地もありますが、六甲山と比べると緩やかな地形となっています。
- 住宅の周りの森林は、定期的な伐採によって低く抑えられ、倒木などのリスクが低減されています。
- 周辺住民や産業団地の企業などが森林の管理に加わることで、森林が健全な状態に保たれ、住民や企業によって安全で快適な空間が形成されています。

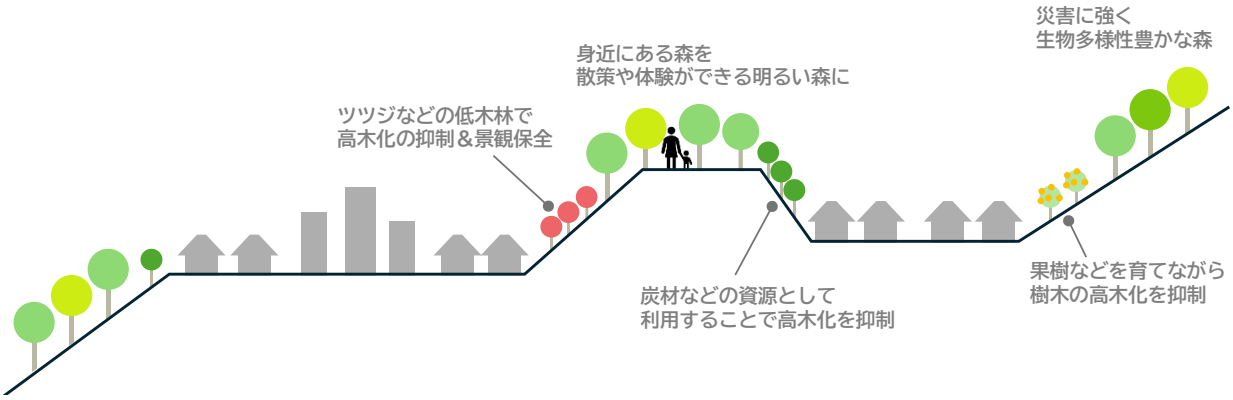


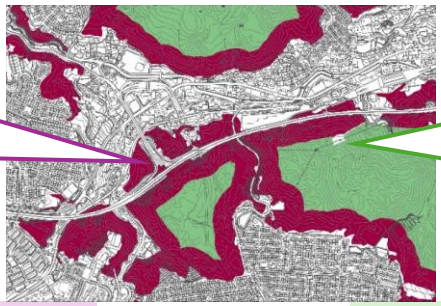
図　まち山における森林の目標像

（３）エリア設定と森林整備方針

①エリア設定

森林整備を進めるにあたり、市域の森林を**「防災・減災優先エリア」**と**「整備・循環促進エリア」**の２つのエリアに分類し、整備方針を定めます。

道路や施設・民家に直接被害を及ぼすおそれのある箇所



防災・減災優先エリア以外の箇所

防災・減災優先エリア

- 防災・減災の視点を優先して整備を推進
- 可能な限り資源利用を推進

設定条件

✓ 道路や施設・民家などから概ね50m以内（倒木等により直接影響が生じる範囲）

整備・循環促進エリア

- 多様な視点で森林整備と資源利用を推進
- 場所の特性に応じて整備方針を組合せ

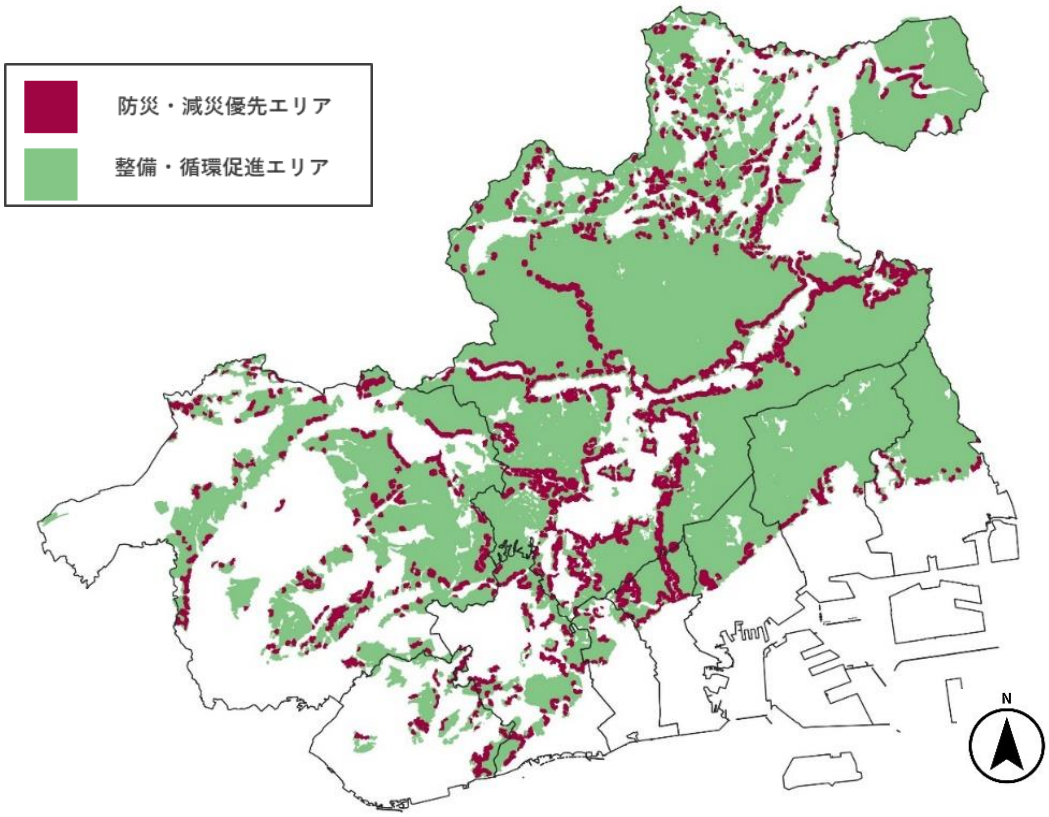


図　エリア設定

②各エリアの整備方針

■防災・減災優先エリア

当エリアでは、枯れた木や高木を伐採し、樹高を低く抑えるための管理を行うことで、倒木等のリスクを軽減します。

継続的に樹高を抑える管理方法としては、ア）周期的に小面積を伐採して高木種の樹高を抑える方法（低林管理）や、イ）低木種を密生させながら定期的に刈り込む方法などがあります。対象箇所の立地条件を踏まえて、管理のインセンティブも考慮し、最適な方法を選択します。

駅舎に近接した森林（新神戸駅）

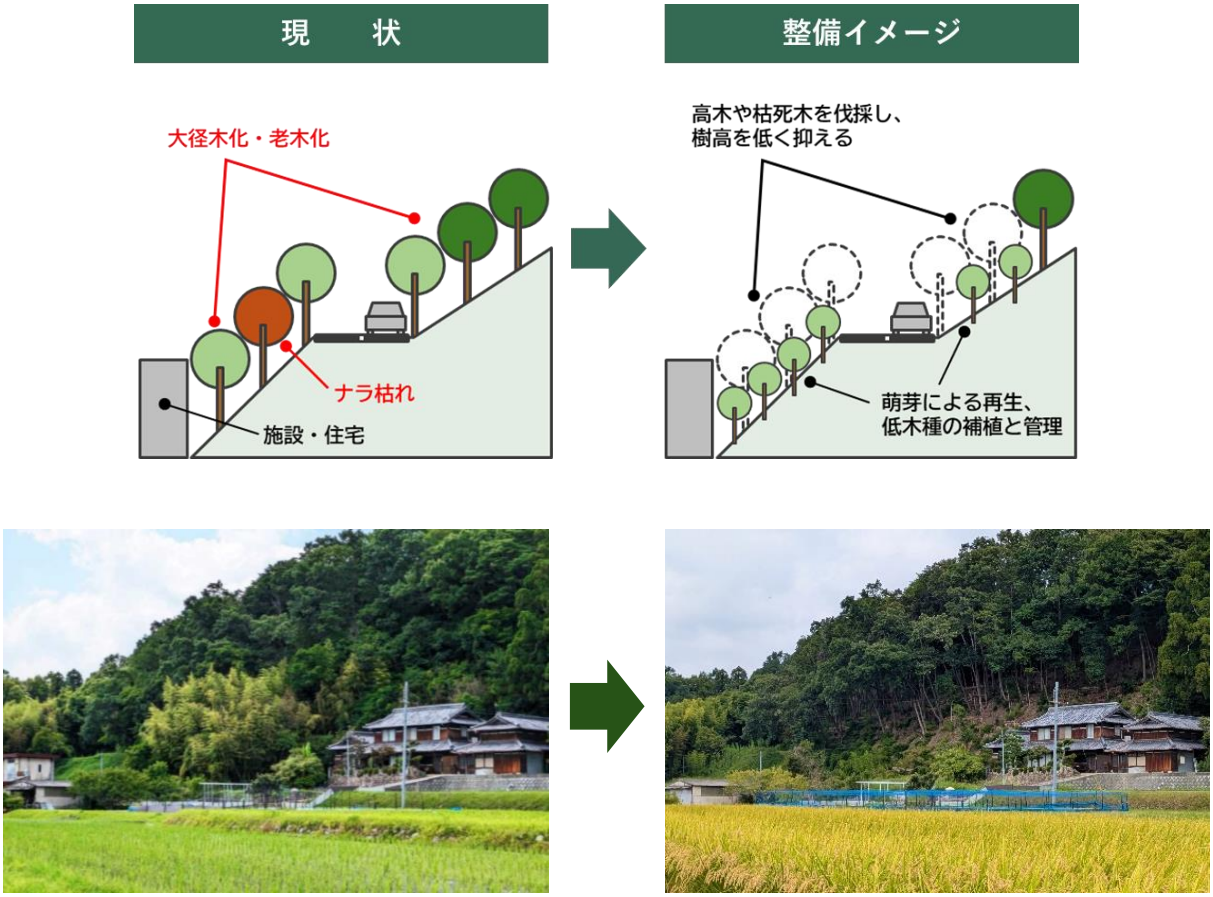


図　防災・減災優先エリアにおける森林整備のイメージ

■整備・循環促進エリア

当エリアでは、多様な視点・価値観や森林の有する多面的な機能を最大限に活かすため、下の図に示す４つの方針に基づいて整備を進めます。対象となる森林の立地条件や状態などに応じて、４つの方針を掛け合わせることで、具体の整備内容を検討します。

なお、これらの方針は、森林所有者や森林整備に関わる方々とのコミュニケーションツールとしても活用します。

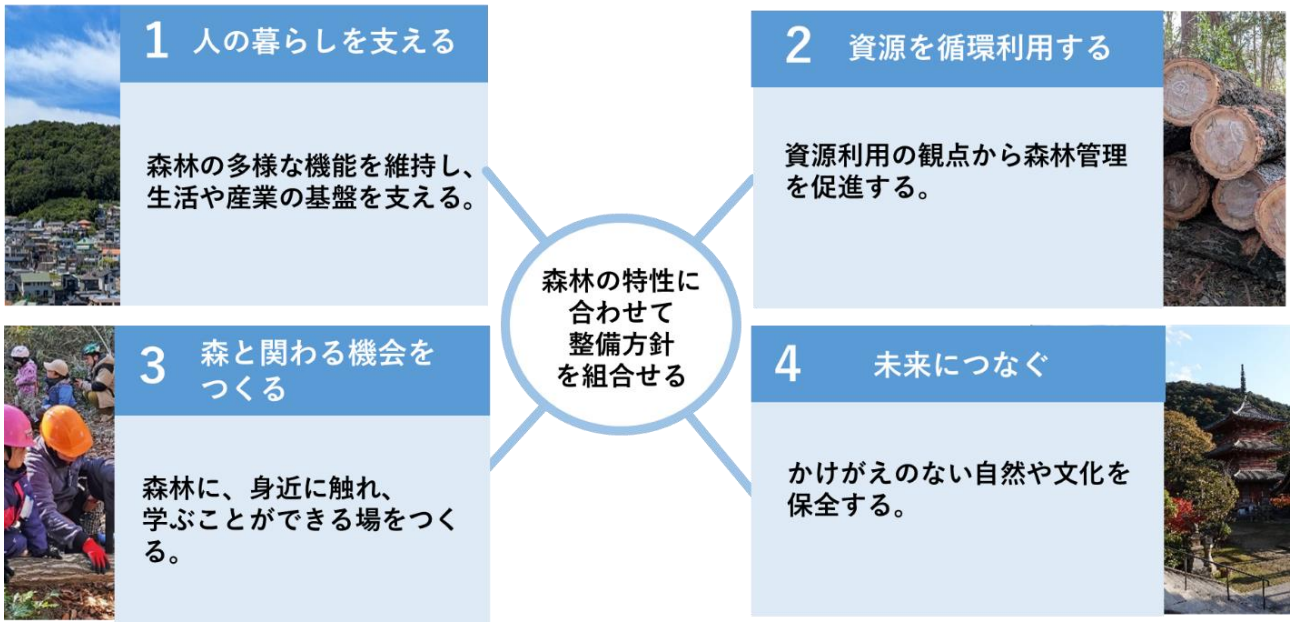


図　整備・循環促進エリアにおける４つの整備方針

●人の暮らしを支える

- 森林を適正に管理することにより、森林の防災・減災機能を高め、農業や観光業などの産業の基盤を整えるとともに、景観の保全や身近な水源の確保等に貢献します。

里山放置林　＊

・防災・減災機能を強化するための整備・更新

植林に由来する広葉樹林

・群状（かたまり状）伐採による森林の更新

＊災害時にまちへ影響を及ぼすおそれのある森林

農地の周辺

・緩衝帯（バッファーゾーン）の整備

観光地の周辺

・危険木伐採、眺望伐採

管理が不十分な人工林

・混み合った林分の間伐
・広葉樹林化

外来樹種の優占林　＊1

・在来樹種への転換

水源林　＊2

・下層植生や森林土壌の発達を促すための整備

＊1　ニセアカシア林、オオバヤシャブシ林など

＊2　貯水池周辺、主要河川流域

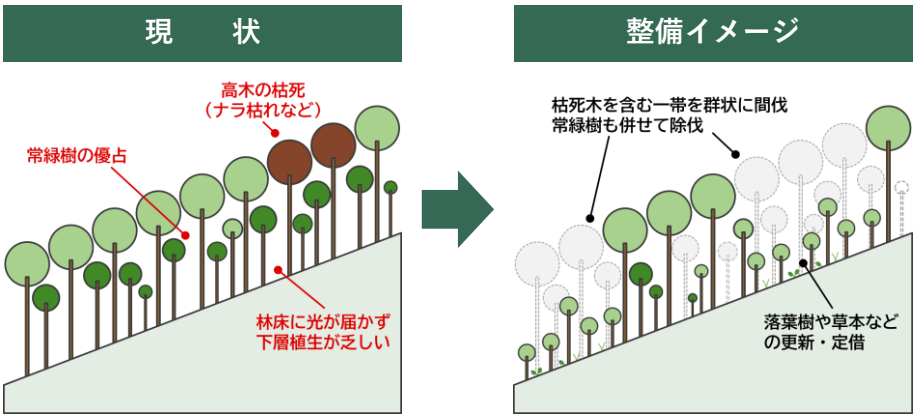


図　整備方針「人の暮らしを支える」の整備イメージ（里山放置林の例）

●資源を循環利用する

- 森林資源を積極的に利用することにより、森林の管理を促進し、手入れ不足による課題の解決につなげます。
- 管理を促すため、伐採木の搬出利用や製品化、伐採跡の再生の実証などを進めます。
- 森林空間も資源として捉え、空間利用に伴う管理も促します。

農村エリアの山麓部

・高齢化した里山林の小面積皆伐と広葉樹材の利用、伐採跡地の再生・利用

まとまりがあり搬出が可能な人工林

・択伐施業
・小面積の主伐・再造林

管理竹林 ＊

竹材・竹チップ・タケノコの資源林としての管理

＊すでに竹林となっており、森林の復元が困難な場所を想定（侵入竹林に対しては、分布拡大抑制のための除伐を優先する）。

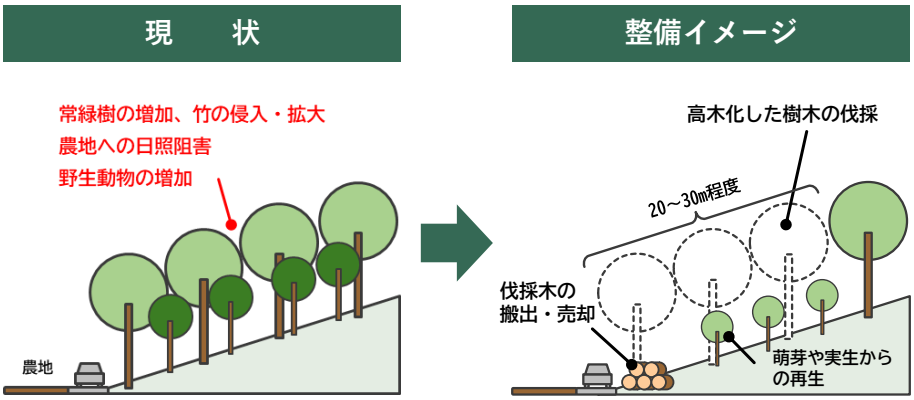


図　整備方針「資源を循環利用する」の整備イメージ（農村エリアの山麓部の例）

●森と関わる機会をつくる

- 森林に身近に触れ、学ぶことができる場を維持、創出します。
- 子供や初心者でも立入りやすい明るい林相として管理します。

ハイキング道や眺望点の周辺

・景観・眺望の維持改善

ハイキング道沿い（谷沿い）

・安全確保のための管理（枯れ木の伐採など）

拠点施設の周辺

・子供や初心者が入りやすい林相の維持
・学習林として多様な林相を配置

住宅地周辺の緩傾斜地

・明るい林相の維持
・歩道の整備

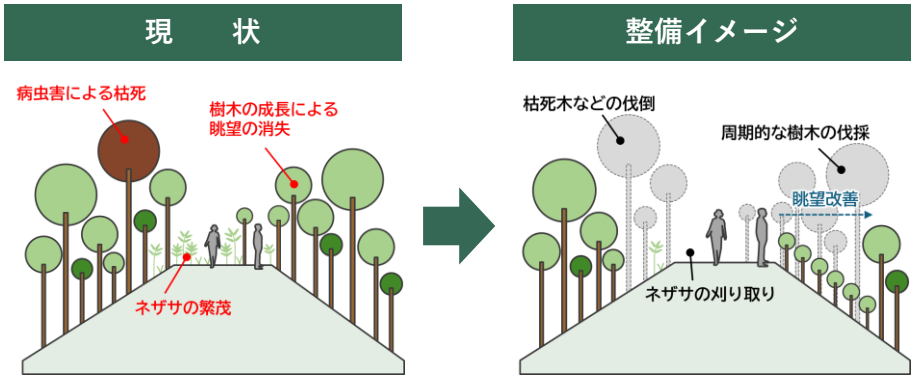


図　整備方針「森と関わる機会をつくる」の整備イメージ（ハイキング道沿いの例）

●未来につなぐ

- 六甲山のブナ林など人為影響の少ない森や、豊かな生物相を育む里山の自然など、貴重な自然を次世代に継承するために、適正な保全と管理を進めます。
- 歴史的建造物やため池・草原の周囲などでは、森林の発達が負の影響をもたらすため、伐採など必要な管理を行います。
- 伝統的な自然である里山林の再利用により、次世代に利用可能な状態で引き継ぎます。

六甲山のブナ林

・人工林や半自然林の整備による保全・復元、次世代の育成

社寺周辺の照葉樹林

・適切な保全
・隣接する人工林や半自然林の整備

歴史的な樹林及び建造物周辺の樹林

・天然記念物指定された森林の保全
・建造物周辺における危険木の管理

伝統的な里山

・文化的遺産や生物多様性のホットスポットとしての保全管理

重要なため池の周辺

・水質悪化等につながる樹林化の抑制
（ため池保全と連動）

重要な草原・湿原の周辺

・樹林化を防止するための伐採

③エリア共通の課題への対応方針

各エリア・方針での森林整備の効果を大きく左右する課題に対し、次のとおり方針を示します。

●課題１：竹林拡大への効率的な対処

- 森林から竹林に置き換わってしまった場所を森林に復元するには、数年かけて管理を行う必要があり、たいへんな労力が必要です。
- そこで、効率的に分布拡大を抑制するため、最前線の森林に侵入した竹を除伐して竹林化を防止するとともに、森林に接する竹林で集中的な整備を行います。
- 竹林を駆除する場合には、管理を継続していくために、皆伐後の跡地の利用（果樹園・茅場など）を検討します。

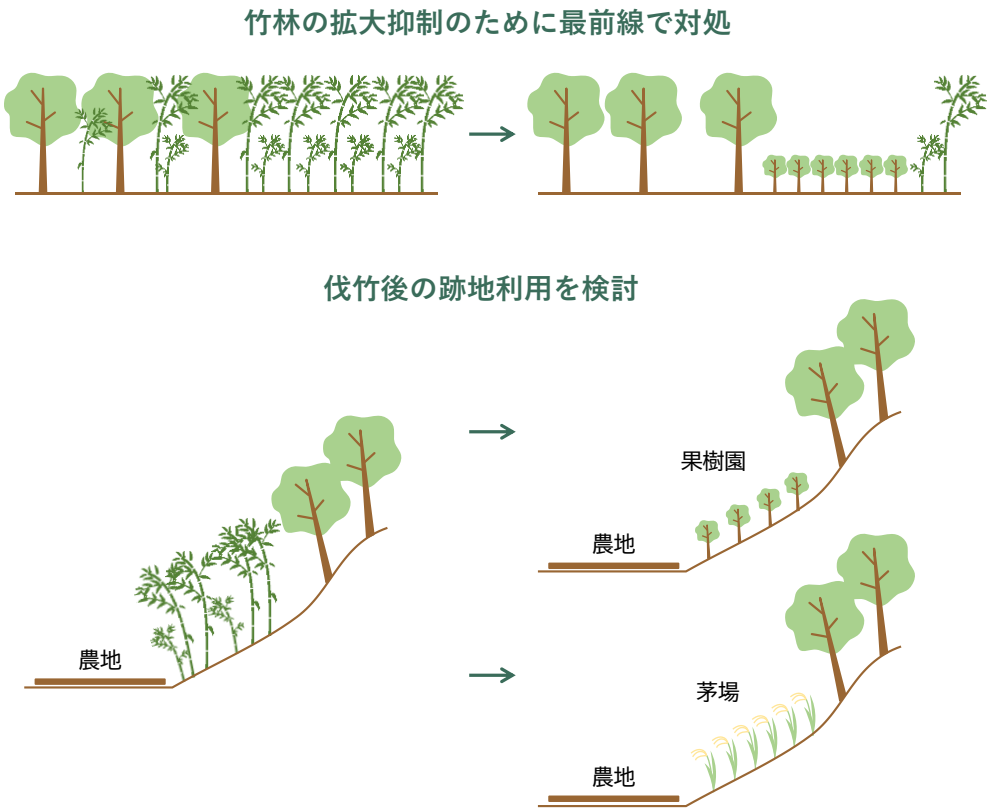


図　竹林拡大への対処イメージ

●課題２：ニホンジカやイノシシの生息域拡大・密度増加への戦略的取組

- ニホンジカに対しては、生息状況を調査したうえで、定着エリアや侵入経路における捕獲を促進します。また、侵入防止に向けた対策の検討も進めます。
- イノシシに対しては、現況調査や影響・対策の検証を行います。
- 捕獲の担い手確保のため、市民等への周知や人材育成に向けた取組を促進します。

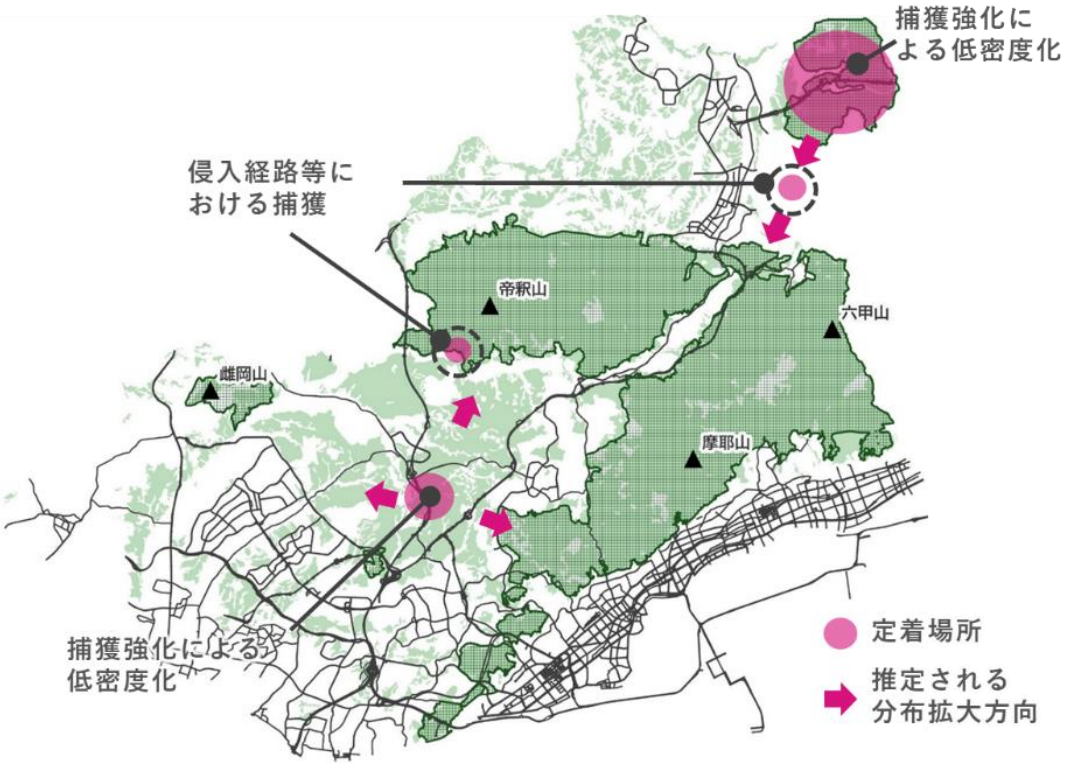


図　神戸市におけるニホンジカの侵入・定着状況と対策

（４）到達目標

本戦略の中期目標を次のとおり定めます。

■状態目標（2035 年）

適正な状態にある森林が 2025 年時点よりも増加し、
里山林の広葉樹資源の利用など、新たな取組の成果が現れている。

■定量目標（2035 年）

目標１：森林整備面積

広葉樹林や人工林、竹林の年間整備面積を増加させます。

100 ha／年
（2025 年時点）

300 ha／年

目標２：資源循環量（広葉樹）

公共事業等で伐採した広葉樹材の年間流通量を増加させます。

100 m3／年
（2025 年時点）

300 m3／年

第３章　目標実現に向けた取り組み

（１）取組の全体像

目標の実現に向け、大きく５つの分野に分けて取組を進めます。

整備拡大

✓資源量の可視化
✓モデル地区での中期計画の展開
など

循環利用

✓資源活用の促進
✓ﾂｰﾘｽﾞﾑなど多様な活用の実証
など

人材育成

✓技術者の育成
✓産官学の連携
など

普及啓発

✓環境教育・木育
✓森林所有者向けの情報発信
など

基盤づくり

✓プラットフォームの活用促進
✓多様な財源の確保
など

（２）分野ごとの取組

①整備拡大

１）森林整備の強化・拡大

● 所有者と考える中長期の計画に基づく森林整備の推進

- 中長期的なビジョンをもって整備に取り組むため、森林所有者への意向調査を進めるとともに、モデル的な地区において中長期的な計画（10～20 年程度）を策定します。
- 計画に基づいて、森林管理の拡大を図ります。
- ニホンジカの分布拡大や竹林拡大など喫緊の課題に対し、早急に対策を行います。

団体・個人所有のまとまった森林（六甲山）

企業の所有林（六甲山）

● 各事業の拡充及び適正な配置・連動による効果的な整備の推進

- 事業規模の拡大を図り、優先度の高い場所から計画的に整備を進めます。
- 各事業の特性に応じて、効果的な整備となるよう事業区域を適切に設定します。また、伐採後の手入れの必要性も考慮し、フォローアップの仕組みを設けます。
- 森林経営計画制度（集約化）のように、これまで十分に活用できていない制度も積極的に活用して整備エリアを拡大します。

繁茂した常緑樹を除伐した森林

農地沿いのバッファーゾーンの整備

2）多様な主体との連携による森林整備の加速

● 企業や団体向けのメニューの整備

- 森林の保全や資源利用に関心をもつ企業や団体の取組を促すために、関わり方のメニューや仕組みをつくり、周知します。また、取組の内容や場所などのコーディネートやプレイヤーとのマッチングを行います。
- 森林クレジットの評価や自然共生サイトへの認定など、企業の財務会計に関わる仕組みを含めて、参加意欲を高める仕組みの活用を進めます。

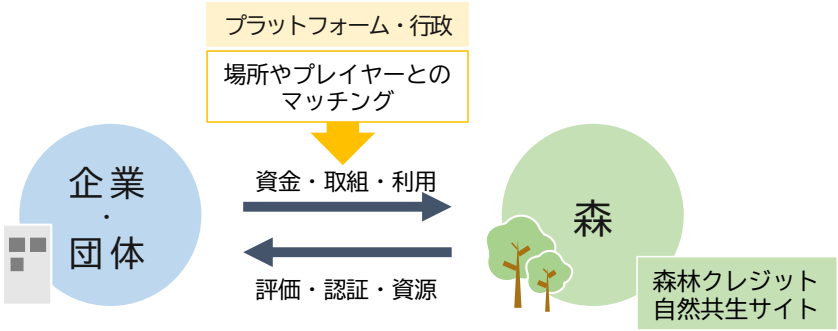


図　企業や団体向けメニューのイメージ

● 市民が取り組む森林整備の支援

- 森林所有者や地域住民等に対して、支援制度の案内、森林整備や資源利用のコーディネート、講習会の開催、機械のレンタルなどに取り組み、主体的な活動を支援します。
- 取組を始めたい市民団体等がスムーズにスタートできるように、スタートアップ制度の創設を進めます。

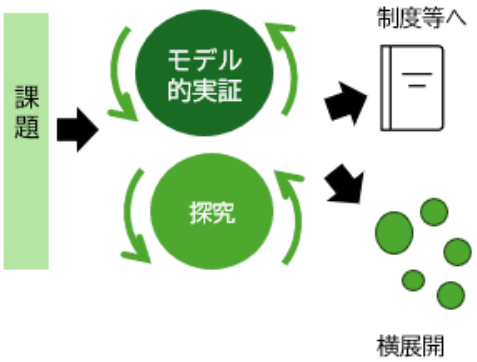
竹林整備の講習会（淡河町）

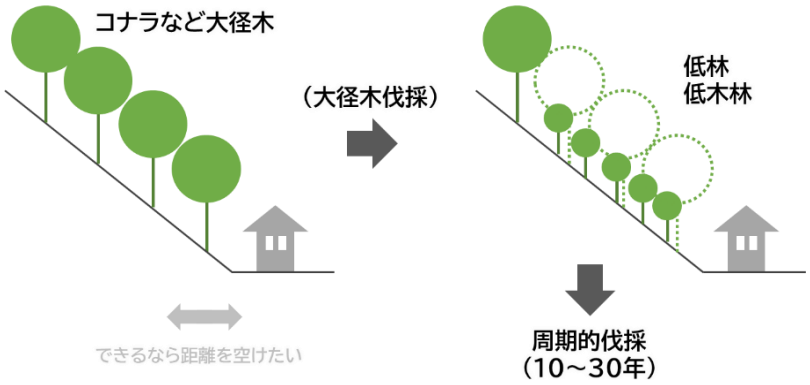
チッパーのレンタル

３）課題解決に向けた探究（道筋づくり）

● 連携による試行的な取組と検証

- 高齢化した里山林の再生方法や、広葉樹資源の搬出・利用方法など、現段階で明確な答えが出ていない課題が多くあります。そのような課題に対して、産官学連携により、試行・検証や探究を進めます。
- 各取組の位置づけを常に意識しながら、実証や探究のみで終わらせることなく、制度や横展開へとつなげていきます。





人家等に近接する斜面では、大径木の伐採後も継続的な管理が必要となります。
様々な条件で検証しながら、低コストで管理できる目標・方法や、周期的に資源を利用しながら持続的に管理する方法などを探っていきます。

図　課題例：大径化した里山林の更新方法

● 科学的知見の蓄積と発信

- 試行した取組については、実践者や大学等と連携してデータを収集し、科学的知見の蓄積につなげます。
- 得られた知見をわかりやすく発信し、市域の取組全体の進展を図ります。

大学による調査

実践者との検証ワーキング

②循環利用

１）公共・民間空間における資源利用の推進

● 神戸市産木材等の特性を踏まえた適材適所での活用

- 広葉樹を主とする神戸市産木材の公共空間における効果的な利用のパターンを整理し、発信します。
- 製材寸法等の規格化や樹種や用途等による利用マニュアルの整備に取り組みます。
- まとまった量の木材を必要とする場所などは、兵庫県産材（県内他地域産）の針葉樹材の利用を検討します。

針葉樹・広葉樹の内装
（森林植物園展示館）

針葉樹の内装
（中央区文化センターロビー）

広葉樹を使用した家具
（中央図書館）

●民間の資源利用に関するインセンティブの整備

- 民間企業等による資源利用を促進するため、森林資源の利用に関する表彰制度や生物多様性価値・CO2 固定認証制度の創設などのインセンティブの整備を進めます。
- 神戸市産木材等の利用促進に向けて、事業者や製作者等に対する支援を行います。
- 認知度及び価値の向上に向けて、「KOBE WOOD」の普及を進めます。

KOBE WOOD のロゴマーク

神戸市産木材で製作した枡

―― KOBE WOOD とは ――

KOBE WOOD とは

神戸の森林・里山・まちを未来につなぐことを目的として、神戸市内の森林やまちから搬出された木材などの自然資源の活用を促進するために生まれた、神戸産の木材等に関するブランドです。

KOBE WOOD の例

KOBE WOOD のロゴマーク

KOBE WOOD
―
Forest tree
Konara
Mt.Rokko

神戸市のかたちを年輪になぞらえたマークです。「神戸の森林・里山・まちを未来につなげたいと願う一人ひとりの取組みが積み重なり、波紋のようにどこまでも大きくなって広がっていく」、という想いを込めています。

Forest tree	出自場所
Konara	樹種
Mt.Rokko	地域

●神戸市産木材の使い手に向けた情報整備・ワンストップ支援

- 民間の森林整備や公園・街路樹の管理、公共工事などで伐採される樹木の情報をプラットフォームで集約し、木材利用者に発信していきます。
- 効果的な利用に向けて、コーディネーターの派遣制度などの仕組みをつくります。
- 利用例の少ない広葉樹の加工方法や使用例をまとめたカタログを作成し、発信します。

木材利用者への情報発信

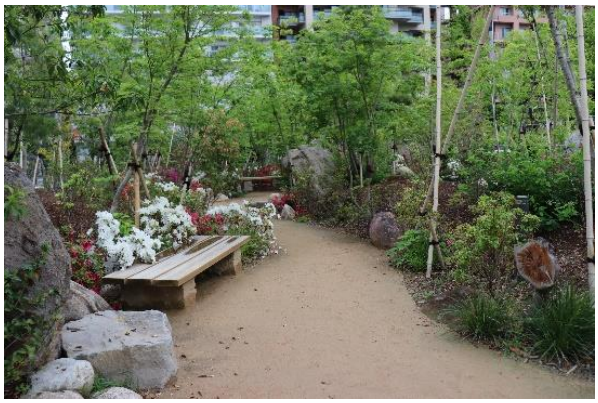
木材カタログ（例）

２）多様な活用方法の実証

●木材以外の資源を活用するためのモデル的取組の創出及び横展開

- 建築や家具に利用できない小径木、枝葉、竹などの資源利用に取り組みます。
- 成功事例の面的な展開に向けて、情報発信や技術講習などを行います。

備長炭



竹チップ舗装（磯上公園）

●森林サービス産業の推進

- 森林空間の利用を促進することにより、森林の適切な管理を促します。
- 六甲山等のハイキング道や眺望スポットでは、ハード面の整備を行います。
- 森林ガイドや里山ツーリズムなどの実証に取り組みます。

登山

森林ガイド

3）流通の仕組みづくり

●拠点施設の整備・拡充

- 木材流通の拠点として、土場及び木材市場の機能の一部を担う神戸市産木材ストックヤードの拡充整備を進めます。
- ストックヤードでは製材された木材も保管し、民間事業者と連携しながら神戸市産木材の可視化を進めます。

丸太の一時保管

製材品の保管

●情報の収集・発信・マッチングの仕組化

- 民間の森林整備や公園・街路樹の管理、公共工事などで伐採される樹木の情報をプラットフォームで集約し、木材利用者に発信していきます（再掲）。
- 神戸市産木材のストック情報（民間所有を含む）を収集・管理し、情報の発信とマッチングを行います。
- 従来の市場や既存システムに捉われない需要と供給のマッチングの場を構築します。

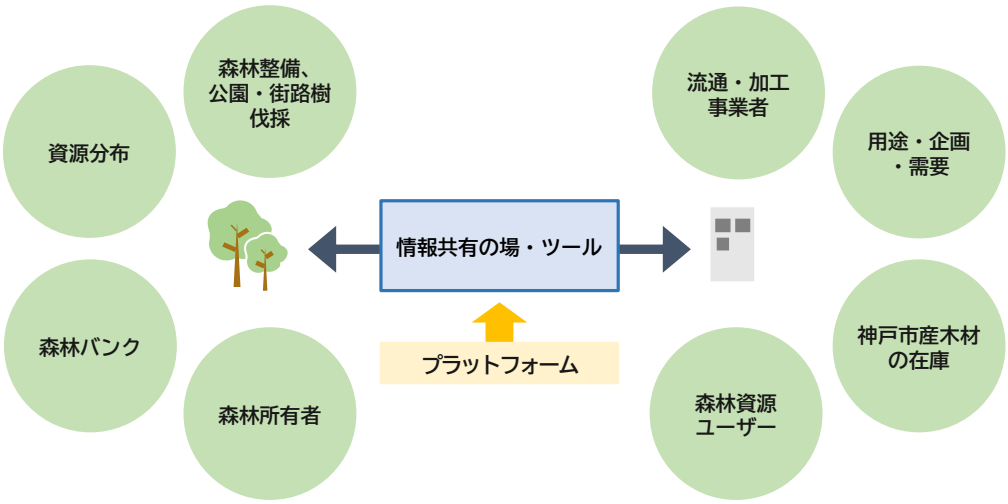


図　情報の共有・マッチングのイメージ

③人材育成

１）森林整備・資源循環の担い手育成

●多面的機能の維持・向上のための森林整備を担う技術者の育成

- 本戦略で掲げる整備方針に沿った森林整備を実現するため、森林整備や計画作成を担う事業者を対象とした講習会等を開催し、担い手の増加や技術力向上を図ります。

表　技術・能力を必要とする作業

- 事業地の森林の現況評価、課題把握
- 整備方針に基づく整備計画の立案
- 広葉樹の樹種判別
- 森林整備の方針に基づく伐採木・保存木の選木
- 施業後の再生までを意識した集材・集積　　など

●資源利用を担う整備事業者・コーディネーターの育成

- 森林整備を行う事業者に対して、広葉樹の樹種判別、資源価値の評価、伐採木の採材・仕分けなどに関する講習を実施します。
- 森林整備と資源利用をつなぐコーディネーター（森林整備・活用コーディネーター）の育成を行います。
- 森林整備と資源利用それぞれの担い手が双方の理解を深めていくため、領域をまたがる人材の育成や、関係者の交流の機会を創出します。

里山資源利用の研修会

２）次世代の継続的な育成

●新たな担い手の育成

- 森林整備の新たな担い手として、農村地域の若手、異業種の民間企業、「複業」*として森林整備に取り組む都市部の市民などをターゲットに、スタートアップ講座を開催します。
- ボランティアではなく、生業として参画する担い手を増やすための取組を進めます。
- 担い手向けに管理マニュアルを作成し、講習等を行います。

企業職員への講習

竹林の管理マニュアル

＊複業：複数の本業をもって働くこと

●大学等と連携した次世代の関わり創出及び育成

- 大学・高専・高校等の学生・生徒が取り組む研究や学習活動の支援など、学生等が森林や資源に関わる機会を創出します。

【取組例】
- 森林フィールドの提供、マッチング
- 製作活動への神戸市産木材の提供
- 共同研究の推進
- 学生を対象とした施策・プロダクト開発コンペの開催　など

大学都市 KOBE

④普及啓発

１）地域の森林への誇りと想いの醸成

● 森林環境教育の推進

- 出前授業や連携授業 KoLaBo（こらぼ）を活用し、子供たちの学習機会を提供します。
- 学習フィールドや神戸市産木材を活用した学習素材の提供などを進めます。

技術授業における木材提供及び解説

中学校における出前授業

● 森林体験・木育の推進

- 森林や木に触れる機会を増やすため、森林体験・木育プログラムの開催を推進します。
- 森林体験・木育の指導者を養成します。

子供向けの森林整備体験プログラム

木工の体験プログラム

● 市の政策や取組の積極的な発信

- 広報紙、HP、フォーラムやシンポジウム等の様々な媒体や方法で積極的に発信します。

イベントへの出展

パンフレット

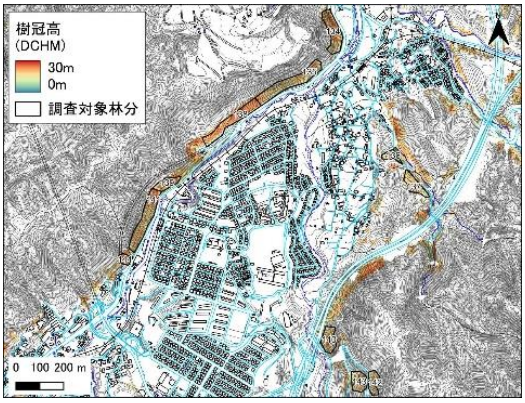
フォーラムの開催

2）森林所有者向けの普及啓発

● 森林価値の評価と PR、連携促進

- 森林の価値を多面的に評価し、可視化します。また、その結果を森林所有者や森林を利用したい人と共有します。
- こうべ森と木のプラットフォームを活用し、連携を促進します。

森林資源の調査



森林資源と可視化

● 森林所有者との対話の場の創出

- 将来の森林のあり方や森林整備・資源利用の計画などについて、森林所有者と対話する場を創出します。

森林所有者との協議

森林所有者との森林の視察

● 庁内の横の連携を活用した情報発信

- 各地域の窓口である区役所及び出張所との連携を強化し、情報発信を行います。
- 森林所有者向けの情報発信ツール（多様な森林整備事業とその手続の流れをわかりやすく整理した資料など）を作成するとともに、ワンストップ窓口の周知を図ります。

⑤基盤づくり

１）公民連携（共創）の推進

●「こうべ森と木のプラットフォーム」の取組促進

- 公民共創の場として設立した「こうべ森と木のプラットフォーム」を様々な情報やつながりを育む場として活用し、川上から川下の連携による新たな取組を創出します。
- 連携のワンストップ窓口として、参画者の知恵やノウハウを森林所有者や資源の使い手に繋ぎ、森林整備や資源利用に関するコミュニティを形成します。

プラットフォーム共創会議

こうべ木のマルシェ

● 公民連携による試行・検証・仕組み化

- 持続可能な森林整備や資源利用に向けて、公民連携の様々なチャレンジを促します。
- 試行の結果を関係者で検証し、成果を踏まえて仕組み化を推進していきます。

―― こうべ森と木のプラットフォームについて ――

●こうべ森と木のプラットフォームとは

プラットフォームは、公民連携により地域の財産である森林を育み、活用し、次世代へ繋いでいくことを目的とし、地域の森林に関わる（または関わりたいと思う）方々が、出会い、意見交換をする場です。多様な人たちが、出会い、知恵を絞り、森林を育み・活かす取り組みが生み出されることを目指しています。

●こうべ森と木のプラットフォームが取り組む４つの分野

1st テーマ　森林まちをつなぐ。森林を地域で活かす。

地域の森林を育む	関わりの創出	ストック・流通支援	木材を活かす

２）横断的・横連携による取組推進

● 庁内部局をまたいだ取組の推進

- 関係部局で日常的に情報及び意見を交換し、横断的な取組を進めます。
- 森林整備や森林資源の利用に関わる森林、防災、公園緑地、環境、農政、建築、地域協働などの関係部局だけでなく、地域との連携の観点で区役所・各出張所とも連携を進めます。
- 市民、企業、NPO、大学など多様な主体との協働を推進します。

地域活性化イベントで木材製品の利用

● 関係行政機関等との効果的連携

- 国や県と情報や知見を共有しながら、連携して森林整備・資源利用を進めます。
- 近隣市町と情報交換し、広域な視点で森林整備や資源利用に取り組みます。

（３）戦略のロードマップ

六甲山森林整備戦略の策定後に取り組んできた様々なモデル的取組を基盤として、防災・減災優先エリアにおける整備強化や広葉樹資源の利用促進に向けた各種取組などの重点取組を５年間で実施し、森林整備及び資源の循環利用にかかる取組を加速、水平展開します。　取組を進めながら、検証による見直しや市民等への情報発信に努めることで、取組が都市の文化や生業として浸透、定着し、持続可能で豊かな都市の実現に寄与していきます。

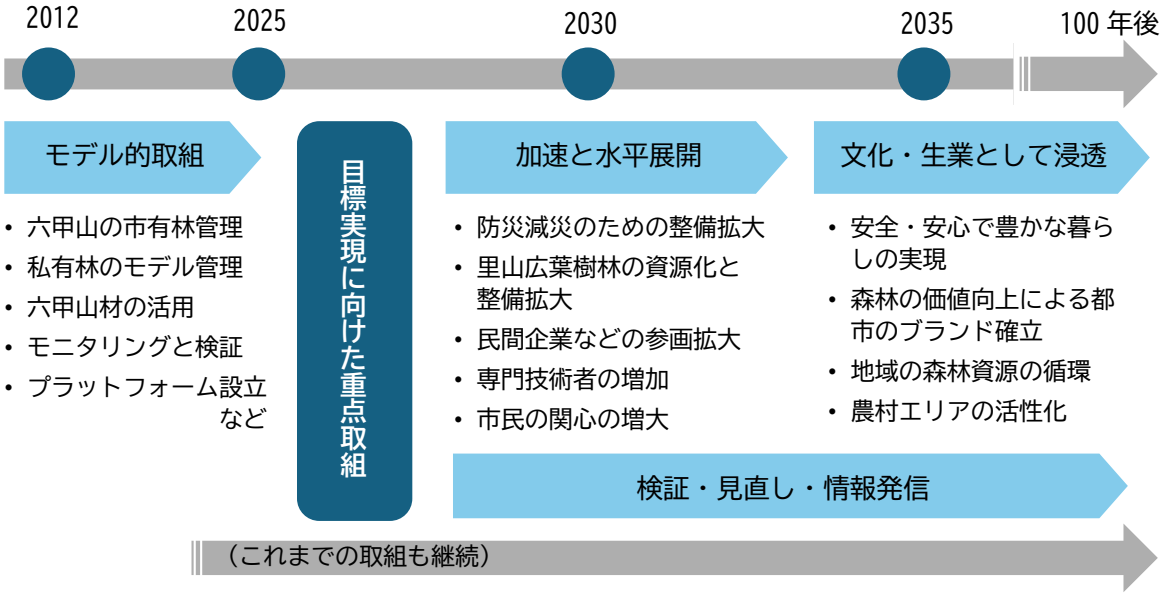


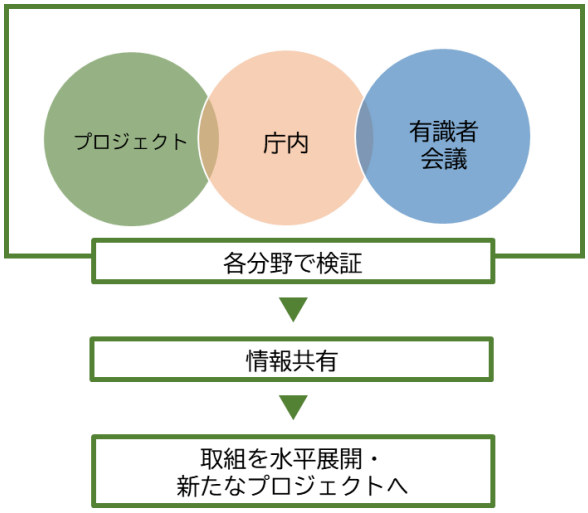
表　目標実現に向けた重点取組

分　野	重点取組
整備拡大	● 防災・減災優先エリアにおける整備強化と検証 ● 広葉樹資源量や森林価値の可視化 ● モデル地区における中期計画の作成及び実践 ● 竹林拡大及びニホンジカ対策の強化
循環利用	● 広葉樹の利用促進に向けた資源量の可視化及び試行検証、仕組み化 ● 拠点（ストックヤード）の整備 ● 資源の多角的利用に向けた実証及び技術開発 ● 森林・里山ツーリズムの試行検証
人材育成	● 専門人材（森林整備技術者、コーディネーター）の育成研修 ● 大学連携等のモデル実施
普及啓発	● 学校向け探究プログラムの開発及び試行検証 ● 森林に関する解説コンテンツの製作 ● 「森の未来都市 神戸」等による集中的な情報発信
基盤づくり	● 企業・市民との連携のための窓口や支援体制の強化

第４章　取組を進めるための効果検証・財源確保

（１）取組の進行管理・検証

戦略に基づく取組を着実に進めるため、次の３つの場で取組を検証します。また、それぞれの検証結果を横断的に情報共有することで、視点を増やすとともに、取組の水平展開や新たなプロジェクトの推進を図ります。



■プロジェクトごとの振り返り

・関係者で丁寧に振り返りを行うことで、得られたノウハウや課題を次のプロジェクトへ反映します。

■庁内における連携と検証

・関係部局で関連テーマの情報を共有し、ノウハウと課題を共有します。

■森林整備にかかる研究会（有識者会議）

・モニタリング結果に基づく効果検証や新たな科学的知見の反映を行います。
・六甲山に関する議論を中心に、市域共通の課題についても検討します。
・得られた知見をわかりやすくまとめて、市民や民間企業等の取組にも反映します。

図　検証のイメージ

（２）進行管理のための指標

各分野別に指標を下記のとおり設定し、原則として毎年状況を確認します。

表　戦略の進行管理のための指標

分野	項目	計数方法
整備拡大	● 管理または活用されている里山林・人工林の面積／竹林面積	● 市事業、民間補助事業、プラットフォーム関連事業をカウント（一部、航測データなども活用）
循環利用	● 持続可能な森林資源の循環量（材積） ● 公共施設における神戸市産木材の活用件数（建築・什器類）	● 市事業、民間補助事業、プラットフォーム関連事業をカウント
人材育成	● 森林整備の担い手の数 ● 次世代育成プログラムの展開数	● 市内事業者数・技術者数をカウント ● 市内事業（民間含む）をカウント
普及啓発	● 神戸市の森林を誇りに思う市民割合 ● 神戸市の森林整備や資源循環に関する記事数	● イベントアンケート等で調査 ● 記事のカウント
基盤づくり	● 森林整備や資源循環に関わる事業者数 ● 民間企業の森林管理への参画件数	● プラットフォーム参画者数をカウント ● 国、県、市と関連している事業を場所ごとにカウント（OECM 含む）

（３）取組を進めるための財源

●森林環境譲与税の活用

- 2019 年に策定（2020 年に改定）した「森林環境譲与税を活用した森林整備の実施計画」の考えに基づいて、森林整備及び資源循環にかかる各種取組に活用します。
- 分野別の配分は、森林整備に６割、資源利用に３割程度を目安とします。
- 森林環境譲与税は、県民緑税事業や林野関連予算で充当が困難な内容に充てることを原則とします。

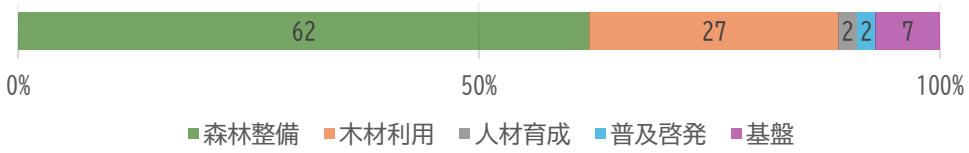


図　神戸市における森林環境譲与税の使途配分の実績（2019～2024 年）

●県民緑税（災害に強い森づくり）

- 第５期（2026 年度から５年間）への延長が確定した兵庫県の県民緑税を活用し、「災害に強い森づくり」を推進します。
- 「都市山防災林整備事業」を防災・減災優先エリアの整備に最大限活用します。
- 県営事業である「里山防災林整備」や「野生動物共生林整備」に関しては、行政と地域が連携して効果的に事業を進めます。

●林野関連予算

- 造林事業をはじめとする林野の予算については、これまでも人工林や広葉樹林等の森林整備に活用してきましたが、人工林の整備や資源利用に関しては活用拡大の余地があるため、国・県と連携して最大限の活用に努めます。

●その他の財源

- 特別緑地保全地区においては、都市緑地法に基づく「機能維持増進事業」を活用し、防災・減災優先エリアの方針に沿った整備を進めます。
- 六甲山等の森林保全に関心をもっている市民や、脱炭素化やネイチャーポジティブなどの視点で森林の保全管理への貢献意欲をもつ民間企業も多いため、資金等を受け入れるための窓口や仕組みの整備、受け入れのメニュー整備や広報を行います。

表　森林整備等へ積極的に活用する財源

- 都市緑地法にかかる交付金（機能維持増進事業）
- 民間企業等の脱炭素化、ネイチャーポジティブ貢献等の資金（企業版ふるさと納税含む）
- 遺贈寄付
- SDGs 市民債
- 森林クレジット（森林由来 J-クレジット等）